

# 山寺通信 12月号

新型コロナの感染も増えていますが、このウイルスの研究も進み、ワクチンも各国の研究の結果手の届くところまで来ています。何事にも言えることですが、危機感が強ければそれなりの対応がされます。今までなかった研究もされて人間の可能性も広がります。お茶も従来の路線で見ると何か消え入りそうな雰囲気ですが、新規参入した人達の方法は、デジタルとアナログを使い分けています。デジタル的には、皆都合よく解釈して合理的に物事を進めています。アナログ的には、几帳面に積み重ねていき文化面を強調します。

茶の店やカフェ等のイメージが無くても急須をとでも多く売ります。そこにはとても大事な道具としての説明がなされています。茶の付属品としての説明だけでなく、ありとあらゆる説明つまり我々が当たり前のことで説明する必要のない事まで説明します。逆に見ると、年代差が出てきた現代ではトレンドが違い、興味の対象が多様化しています。例えば伊藤園は、最初の仕事が思ったような成果が出なかったのが皆で話し合った結果お茶を選んだそうです。食料品であり、扱いやすかったものだったことが理由のようで茶に関して全く知識がなかったようです。それからは、色々紆余曲折を経て茶の缶飲料で酸素を除去することができ変質しない物が成長路線に乗ったことは周知の事実です。現代は SNS はやりで、その中でも食品が良く掲載される「インスタ映え」が合言葉のインスタグラムが流行を作り出しています。

2021年版の正規カタログができましたのでお客様に発送しています。下記一部製品

現在人気のある二人前川淳蔵 初代舜園の娘の舜才の浮世絵彫



有田焼の水玉模様は昭和を代表する模様です  
肥前吉田焼副千製陶所(デザイナーとコラボ)  
マグカップが湯呑より売れています。

